

台東区区民憲章策定区民会議
第2回草案作成グループ会議 議事概要

平成 18 年 6 月 20 日（火） 19:00～21:10
台東区役所 901 会議室

1. 前回の議論で決定した「表現の統一」等について

- ・ 前回の議論において、本文の文末を「まちにします」「まちをつくります」といった表現で統一して修正案を作成していただいたが、これであると、基本構想と重複する感覚を与えてしまう懸念がある。
- ・ また、一部の委員からは形式を固定してしまうと、うまく表現する余地が無く案を作成できないとの意見もあった。そこで、「まち」という表現にこだわらない方がよい。
- ・ 「個人としてできること」という視点で区民憲章を創ることが共通認識であれば、表現は統一しなくてもいいかもしれない。
- ・ また、表現の難易度については、小学校の校歌などにも、小学生には理解できない言葉もあるが、歌っていると染みついていくものである。区民憲章も似た性格のものであるので、必ずある世代まで理解できなければならないというものではない。

2. 基本構想との違いや位置づけについて

- ・ 基本構想に記載されている文章は非常に良くできており、基本構想の言葉を選ぶといい文章ができる。その結果、憲章案が基本構想のダイジェスト版になってしまう。
- ・ 仮に文末を「まちにします」としなくとも、基本構想と似た表現になってしまい、その違いや位置づけを明確にすることは難しいと感じている。
- ・ 憲章案を作成する際には、「自分たちができること」を強く認識すべきである。日常生活で区民ができることを重視すべきである。また、区民憲章は基本構想と異なり、改訂はせず、かなり長い命になることも大きな違いである。
- ・ ただし、今回の台東区基本構想は、単に行政運営の事だけでなく、区民参加により「まちの将来像」を示しているなので、その内容が似てしまうのは理解できる。
- ・ 基本構想との差を明確にするための一つの手法として「和語」であり、これを使った。
- ・ 基本構想にある「まち」にするために、区民は「何をすればよいのか」ということ、「個人でできること」を区民憲章に表現できればいいのではないかと。また、わかりやすい言葉で、具体的なことを示すのが大事なのではないかと。
- ・ まちの将来像を考えるという同じ流れの中にあるものなので、基本構想と区民憲章を違うものとするの方が違和感がある。

三輪副会長よりアドバイス・補足等

- ・ 基本構想と区民憲章の違いを考えることはとても重要である。また、「まちにします」という文末にすると「では、今は違うのか」という反論が必ず聞かれる。この2つの点は、最初から最後まで議論されることである。
- ・ 基本構想と区民憲章の違いを極論で申し上げると、基本構想は税金でやることであり、区民憲章は自腹でやることである。
- ・ つまり、基本構想策定への区民参加は納税者、主体としての参加であり、区民憲章策定への区民参加はボランティアで参加しているといえる。
- ・ また、内容、表現は基本構想の表現を意識して、特に変える必要はないと考えられる。

3. 本文について

- ・ 起草グループでの議論の成果を次週の全体会で報告する必要がある。これまでの各委員の案の中から、よりよい案を1～2くらいに絞り、提示したいと考えている。
- ・ これは最終案としてではなく、全体会で有益な議論してもらうための案を作成するという意味で集約できればいいと考えている。

<先人の心を受け継ぐ歴史・文化づくり>

- ・ 「歴史・文化」の代替語として、「いにしえ残る」「うけついだたからもの」などを考えた。例えば、「いにしえからのたからもの」としてはどうか。
- ・ 「物体」ではなく「心」を残したいと考えている。「心を引き継ぐ」という点を重視するのであれば、「いきざま」などの表現も考えられる。
- ・ 案にある「薫り高い」という表現はとてもよく、「心」と合わせて表現できればよい。
- ・ 「先人の心を受け継ぐ」ものは、心を豊かにするものだと思う。「心豊かに」という表現がメインになるべきではないか。そうすると、文案としては「先人たちの残してきた心豊かさを大切に受け継いでいきます」といったものではどうか。
- ・ 「先人たちの残してきた心豊かさ」よりも「受け継いだたからもの」の方がよいと思う。
- ・ 「祭り」と「いしにえの知恵」と「技」をいれればよいのではないか。「祭りやいにしえの知恵と技が生きた」という文頭ではどうか。

三輪副会長よりアドバイス・補足等

- ・ 前文と本文で内容が関連している例は他市区町村の例をみると極端に少なく、無理に関連づける必要はないと思う。
- ・ 次回の全体会での議論を有益にするためにも、まず5ヶ条について、それぞれ2つずつ各委員がよいと思うものを選択し、その後、再度議論を行い、最終的に複数案を決定してはどうか。

委員の投票により、選択された区分ごとの文案

(各委員の憲章案については別添資料を参照)

<先人の心を受け継ぐ歴史・文化づくり>

- ・ わたしたちは、祭りや市を大切にしたいまちにします
- ・ わたしたちは、いにしへの知恵と技が生きた懐かしいまちにします。
- ・ 歴史や文化を 大切にまもり いにしへの残る ころゆたかなまちをつくります

<おもてなしによるにぎわいづくり>

- ・ いきいき ふれあひもてなし 心いき にぎわうまちをめざします
- ・ わたしたちは 思いやりとおもてなしの心でやさしいまちにします

<人情と思いやりによる安心づくり>

- ・ ささえあひ 思いやり とともに暮らせる やすらぐまちをめざします
- ・ わたしたちは 助け合いとあいさつを忘れないあたたかなまちにします
- ・ 老いも若きも おたがいさまで 人情あふれる たすけあひのあるまちをつくります

<緑と水による潤いづくり>

- ・ 花とみどりとお水をいつくしみ やすらげる さわやかなまちにします
- ・ 緑や自然を いとおしみ はぐくみ うるおいのあるまちをつくります
- ・ さわやかな自然を いつくしみ みんなが憩える うるおいのあるまちをつくります

<家族と地域・人に学ぶ人づくり>

- ・ 人とのきずなを大切にまもり とともに学び働く 明るいまちをつくります
- ・ とともにまなび 夢かたりあひ あいはぐくみ育つ すこやかなまちをつくります

三輪副会長よりアドバイス・補足等

- ・ 「よい」とか「魅力ある」「大切にしたい」といった言葉は、どれにも当てはまってしまいうのであまりよい表現ではない。「大切」な内容をもっと掘り下げて、どういう言葉がよりの確かということを考える必要がある。
- ・ 他市区町村他の例をみても、憲章の中で文言の重複はない。台東区の現在の議論の経過を考えると、「心」という表現をどこで使うかという点について注意する必要がある。
- ・ 否定語を用いるのはあまりよくない。「忘れない」という表現は気をつける必要がある。

4. 前文

- ・ 前文は、芭蕉の句のある・なし別に提示できるとよいのではないか。それに対し、全体会で各委員の意見が反映されていない点などを指摘してもらった方がいいのではないか。

<芭蕉の句を用いたタイプ>

- ・ A～B案のうち、B案を推薦する。

<芭蕉の句を用いない形>

- ・ C～E案、各2票であり、多数決では決定できないため、3案とも推薦する。

5 . その他

- ・ 今後は、本日の議論の結果を基に全体会資料を作成し、全体会で草案グループの検討案について議論をいただく。次回の草案グループ会議は7月5日（水）19:00～を仮に設定する。
- ・ 全体会の議論を受け、次回のグループ会議までに、どのような準備をすべきかについて、全体会后に検討したい。

以上